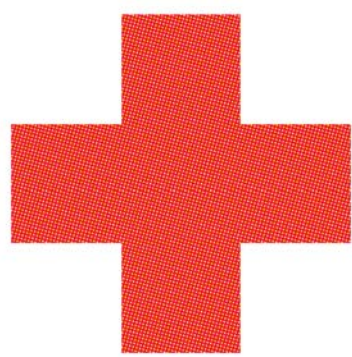


命を救う。



知っておきたい応急処置



福岡市消防局の講習で胸骨圧迫を行う講師

深さ5cmまで胸を押す

人が倒れた。最初に近づく人は、まず周囲の安全を確認しなくてはならない。倒れた原因が感電で、そばに電線があるなど危険かもしれないから。近づいたら、倒れた人の反応をみる。呼びかけ、両肩をたたく。反応がなければ助けを呼ぶ。できるだけ多くの協力者を集め、救急車とAEDの手配を依頼する。その際、誰が救急車を呼び、AEDを持ってくるかを明確にして返事をもらう。「誰かお願いします」「誰かお願いします」です。最近の1日の出動件数は平均で180件

対応が遅れる可能性がある。また、救急車については「119番お願いします」と依頼した方が、平均8分ほど、それまで対応できるのは、その場に居る人しかいない。胸骨圧迫は、胸の真ん中に片方の手の付け根を置き、もう片方の手を重ねて垂直に押す。力は、少なくとも5センチほど、クレジットカードの縦の長さが目安だ。かなりの力が必要で、肘を真つすにすると力が伝わりやすい。高齢者などでは肋骨が折れる可能性がある。押しっぱなしは禁物で元に戻すことも意識する。圧迫のリズムは1分間に100回のペース、30

誰かが倒れた時、その場にいる人の行動が生死を分けることがある。例えば心臓が突然止まって亡くなる「心臓突然死(SCA)」は、迅速に対応すれば防ぐことが可能だ。SCAは年間6万人を超え、子どもが亡くなる場合もある。それだけに、心肺蘇生法と自動体外式除細動器(AED)の使用など救命措置の知識と技術を、多くの人に身に付けてほしい。福岡市消防局は市民向けの救命講習を実施している。その一つ「普通救命講習」の内容を紹介する。



福岡市消防局は市民向けに救命講習を実施

人工呼吸、止血、異物除去

人工呼吸を行うのは、30回の胸骨圧迫の合間、感染症を防ぐための逆流防止弁が付いた専用マスクがある場合のみ実行する。額に手を当て、あごを上げて気道を確保。相手の鼻をつまんで息を2秒間吹き込み、口を離すことを2回したら胸骨圧迫を再開する。あくまで胸骨圧迫が優先で吹き込むのは1回でもいい。

止血は、出血箇所を清潔なハンカチやタオルなどで押さえる直接圧迫で行う。心臓に近い方をひもで縛るなどしない。止血でも感染症予防のため血液に触れないようティッシュ袋などで手を覆う。可能であれば本人に押さえさせる。のどに詰まった物を取り除く異物除去では、意識がある人には、せきをさせる。できない場合には、肩甲骨の間を口の方に向かってたたく方法と腹部突き上げ法がある。腹部突き上げ法は、後ろから体を密着させ、拳を作り、親指側をみぞおちとへその間に当て強く圧迫する。この方法は内臓を傷付ける恐れがあるため最後の手段とし、乳児と妊婦には行わない。

AEDは一般人でも使用できる

関係者だけでなく一般のと脇の下に張る。鎖骨のは強く、服に張り付いて使用が解禁になった。使用の方は装置が音声で指示する間、瞬間を待たないこと。毛深い人には少ない。ショックが必要かどうかはAEDが判断する。できるだけ胸骨圧迫を中断せずに使用する準備を進める。使用のポイントは2枚のパッドの張り方。心臓を立体的に挟むように胸



福岡和白病院のヘリポートと医療用ヘリコプター「ホワイトボード」

医療用ヘリコプター

救命救急に威力を発揮するのが「航空救急」と呼ばれる活動だ。中でもドクターヘリは、総合病院などの委託を受けた運航会社が運営する。病院の救命救急センターに常駐しており、消防や警察などの要請を受け現場に急行する。医療機器を装備。医師や看護師が搭乗して同センターに搬送するまでの間、医療も施す心強い存在だ。福岡和白病院(福岡市東区)は、全国でも数少ない民間医療機関による医療用ヘリコプター「ホワイトボード」を運航している。ホワイトボードの一番のメリットは、県境を越えて搬送できること。片道約200キロの範囲で活動が可能。病院や消防機関の要請を受け、離着陸所で救急車と合流する。離島からの搬送も行つ。

家庭に備えることも可能

AEDを取り扱っているフタ電子によると、設置場所は公民館、スポーツ施設、オフィスビル、テナントビルなど人

AEDにはリース制度も



が集まる場所に広がっている。タクシーなど車両に備える事業者もいる。使う人が限定されている個人購入が可能。リース制度もある。AEDはバッテリーで動作するので設置場所に電源は必要ない。できるだけ早く使用できるよう、大きな施設には間隔を開けて複数台の設置を望ましい。場所は分かりやすいこと。バッテリーとパッドは定期的に交換しなければならぬ。小児用にショックの電力を抑えられるタイプもある。

応急処置の心構えと重要性

蘇生の方法を知っているか否かの違いは大きい。機会があれば講習会などに参加し、AEDに触れてみるのがいい。ビジネスパーソンの皆さんは、外出先で体調が悪そうなる人を見かけたら、勇気をもって一声掛けてほしい。そういう互助の精神を大切にしたい。AEDの設置箇所は増えている。オフィスや通勤途中、折に触れて気にかけておくことが重要だ。(談)



福岡和白病院医師 EPR副部長 白馬雄士氏

水の安全・安心は私たちが担っています。



環境分析を通してみなさまの安全・安心をお届けします

私たちは、飲料水を始めとする様々な水質分析を行っています。安全で快適な地球環境づくりを支援し、未来のこどもたちにすばらしい地球環境を引き継ぐことが、私たちの使命です。

株式会社 太平環境科学センター

福岡市博多区金の隈2-2-31

☎092-504-1220

<http://www.taihei-esc.com>

水道GLPに認定されました(水道水質検査優良試験所規範 認定番号:JWWA-GLP114)

水道法第20条第3項検査機関登録(厚生労働省第79号) 建築物飲料水水質検査業登録(福岡県23水第74号)

濃度計量証明事業登録(福岡県第34号、長崎県第109号) 認定特定計量証明事業者(福岡県第8号)

土壌汚染対策法環境省指定調査機関(環2003-1-407) 温泉成分分析機関登録(福岡県第5号)

作業環境測定機関登録(福岡労働局40-46) ダイオキシンの調査の受注資格(環境省) ISO9001認証